

にしぶくろ
 〈西袋地区のはじめての米〉

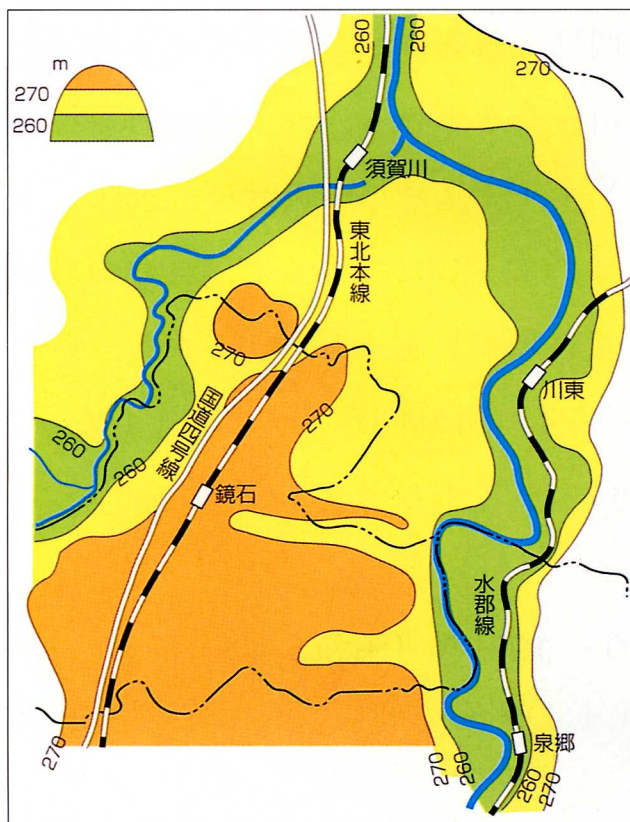
昭和29年5月。はじめて猪苗代湖の水が西袋地区に流れると「末代まで猪苗代湖に足をむけてねられない」と人びとはよろこんだ。はじめてしゅうかくできたときは、仙台の農政局まで出かけ、根のついた穂をおみやげにもって行った。
 「安積疏水百年史より」

はとりようすい
 羽鳥用水



「いまの矢吹町から鏡石町にかけては、矢吹ヶ原とよばれ、むかしから水の少ない原野でした。」

先生が下の地図を見せてくださいました。



やぶきがはら ほくぶ
 矢吹ヶ原の北部の地形

「川が西と東にあるのに、どうして水が少ないのかな。」

みんな等高線を調べてみることにしました。

「そうか。川よりも高くなっているんだ。」

